

授業改善のイメージ（保健体育科）

本年度の研究テーマ（2年次）

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成
～「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実～

授業改善を行う単元とその評価規準（思考力・判断力・表現力等）

1年 器械運動（マット運動）	2年 球技（ネット型：バレーボール）	3年 球技（ゴール型：バスケットボール）
技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。

「思考力・判断力・表現力等」の育成の方針

(1) 大切にしたい見方・考え方の明確化

- ・運動やスポーツの特性や魅力を実感するとともに関連して高まる体力について知ること。
- ・自己の適性等に応じた「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を見いだすこと。
- ・運動やスポーツとの多様な関わり方について身近に捉えることができる生徒の育成を目指す。

(2) 「見方・考え方」を働かせるための「見通し」と「振り返り」の場面の設定

①「見通し」をもたせる場面

- ・オリエンテーションにて、単元のめあてを提示し、個人のめあて（目標）を記述させる。
- ・競技の特性や関連して高まる体力について知らせ、取り組みやすい活動を設定する。
- ・単元を通して活用するワークシートを作成し、技能の説明や、振り返り、話し合いの記録などをさせる。

②「振り返り」の場面

- ・単元ワークシートに、技能のポイント、練習方法、次に向けて、などを毎時間記録をさせる。
- ・単元終了後、授業を通して身につけたこと、考えたこと、工夫したことを記述させる。
その際、「する、みる、支える、知る」といった視点ごとに振り返らせる。

(3) 単元を貫く学習活動の設定と授業規律の徹底

- ①領域の特性に応じた補強運動やウォーミングアップを見直しを図りながら継続して取り組む。
- ②持ち物の準備や管理、集団行動などの授業規律を徹底させる。
- ③ペアやグループワークの積極的な活用→考えや動きを伝え合ったり、教え合ったりできる場面を設定する。

評価方法の充実の方針

①形成的評価

- ・行動観察、グループワークなどから、伝え合いや教え合いの様子を把握する。
- ・単元中間チェック（ワークシート、スキルテスト、form 入力など）からBに達していない生徒を把握する。
- ・努力を要する状況の生徒への手立て

㊦場の工夫

→習熟度に応じた場所の工夫、用具の工夫をすること。

㊧課題に応じた練習方法の選択と工夫

→設定した課題に適した練習方法を資料として例示すること。

→個人やグループにおける課題の設定や振り返り、フィードバックの場面を設定すること。

㊨振り返りの表現方法の充実

→ペア、グループで他者の表現を参考にできるような雰囲気づくり、場面の設定をすること。

②総括的評価

- ・定期考査にて、領域に関わる知識や関連して高まる体力などについて問う問題により評価する。（知）
- ・スキルテスト（中間・単元末）や個人、集団における行動観察により、総合的に評価する。（技）
- ・ワークシートおよびレポート、定期考査によって、その取り組みの状況の評価する。（思・判・表）（主体）